



～お知らせ～

今年も残すところ1ヶ月わずかとなり何かと忙しい時期を迎えました。境界標設置業務など現場がある業務は降雪にそなえ急ピッチで作業を進めているところです。コロナ感染防止対策は無論のこと業務の安全確保にあたっては十分な対応をお願いします。



気象庁では、「今年の冬（2022年 - 2023年の冬）、フィリピンやインドネシア付近の海面水温は、平年より高く、太平洋赤道域の西部では、“ラニーニャ現象”時の特徴が続く予想です。この影響で、冬になると偏西風が蛇行し、日本付近に寒気が流れ込みやすくなるでしょう。沖縄、九州から東北を中心に、寒さが厳しくなる見込みです。日本海側では、例年以上に雪が多くなる可能性もあります。」と予測しています。（気象庁HPより）

こここのところ寒くなってきたと思ったら、またまた新型コロナの感染者数が増えてきました。新型コロナの「第8波」に備え、政府は、2022年夏の「第7波」と同じ程度か、それを上回る感染状況になった場合には、都道府県が「対策強化宣言」を出し、住民に外出自粛などを要請できるようにする方針を決めました。

新たな方針では、現在5段階にわかれている感染状況のレベルのうち感染者がいない「レベル0」をなくし、4段階に見直すとしています。

そして、2022年夏の「第7波」と同じ程度か、それを上回る状況になった場合などを、レベル3の「感染拡大期」と位置づけるとしています。

「感染拡大期」になれば、都道府県が「対策強化宣言」を出し、住民に対し、症状がある場合の外出や出勤などの自粛や大人数の会食への参加の見合わせなど、慎重な行動を要請できるようにするとしています。

また、医療全体が機能不全の状態になるなどした場合は、最も深刻なレベル4の「医療ひっ迫期」とし、出勤の大幅抑制や帰省・旅行の自粛、それに、イベントの延期など、より強力な要請を可能にするとしています。

町内会のラジオ体操に参加している元気なお年寄りからの情報です。

「皇居ラン」は銀座のホステスが流行らせた

平日には1日7千人以上のランナーが皇居外周を走るという。土日になると、その数は1万人に膨れ上がる。起伏に富んだ1周5Kmのコースは、信号もなく走りやすい。桜田門、東京国立近代美術館、千鳥ヶ淵公園、英国大使館、国立劇場、最高裁判所など「東京名所」を走りながら楽しめることも、ランナーたちの人気を集めている。そんな「皇居ラン」ブームの火付け役になったのが「銀座のホステス」ということはご存じだろうか。1964年11月1日未明、「皇居一周マラソン」が開催された。主催者は、「銀座のクラブやバーの経営者」で「ホステス」が選手として出場した。「未明」というスタート時刻がいかにも「夜の街」らしい。当時の新聞や週刊誌によると、その年の東京オリンピックで円谷幸吉選手が銅メダルを獲得したことにあやかったイベントだったという。参加した約40人のホステスは、店名と源氏名が記載されたゼッケンをつけて走った。優勝タイムは5kmを23分台となかなか速い。これに触発されたのが、皇居そばの国立国会図書館に勤務する男性職員たち。昼休みに有志で走り始め、合い言葉は「決して他人と競争せず、マイペースで走ろう」だった。そ

の後、皇居周辺で働く官庁職員や一般企業の社員のなかでも走り始める人が出てきた。こうして70年代に入ると「皇居ラン」は一大ブームとなっていた・・・・・・。

この町内会ラジオ体操は毎週土曜日の朝6時30分開始！

終了後、向かいの居酒屋で「朝カフェ！」と称し小一時間の井戸端会議
参加者は、毎回約10数名で元気なお年寄りが中心



「ウィークリースタンスの徹底を」お願いします

- ①昼休みや16時以降開始の打合せは行わない
- ②休日明け日（月曜日等）は依頼の期限日としない
- ③休前日（金曜日）は新たな依頼をしない
- ④ノー残業デー（水曜日）は勤務時間外の依頼はしない



○必見！ ホームページをリニューアルしました！ 新たな情報等があれば教えてください
www.hokurikuyouchi.co.jp

○お願い！ 「A i p o」を活用しましょう